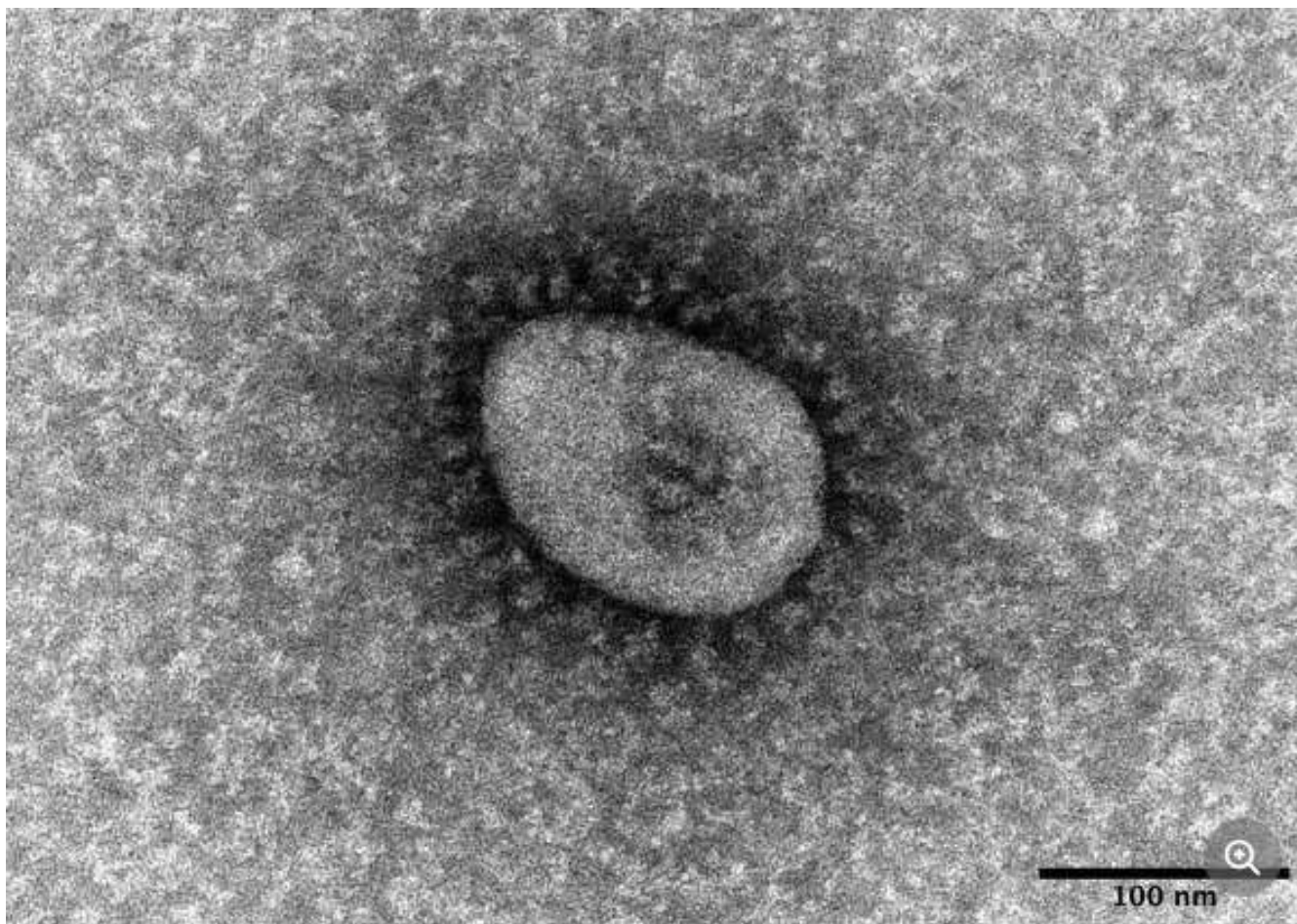


倉持仁・院長、「とうとうコロナに」感染 熱が「39度ぐらいから36度にすぐなった」「咳はひどくなり」

3/16 中日スポーツ



オミクロン株（国立感染症研究所提供）（中日スポーツ）

新型コロナウイルス患者の治療に取り組み、メディアで医療現場の声を発信している宇都宮市のインターパーク倉持呼吸器内科の倉持仁院長が14日夕方のX（旧ツイッター）で、新型コロナに感染したことを報告した。

この日の午後4時過ぎに「すみません！とうとうコロナになってしまいました。外来の患者さんや外来の先生、スタッフの皆様にはご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。はやくふっきするようつとめます！」と投稿。

続く長文投稿では、「私の場合、寝ている間にバビュンと39度ぐらい、でて、でなんかだるくて咳と鼻水ひどいなー、ふらふらしてと思いき自分の病院で検査できました。36度にすぐなったし、咳はひどくなるけど、まさかコロナではないし、インフルでもないなって思っていたらコロナでした。事前にひとにうつさないようにして、検査もはやくうけられ、投薬も早くできたので（いまだに職員にはずーとプール法PCRしています）、今はだいぶ回復して冷凍うどん食べました」とひらがな交じりに発病の状況を振り返った。

さらに「今年3月にかかってある意味ラッキーだったのかも知れず、自分がコロナ見る病院にいたから、たまたまラッキーだったと思うのですが、これが4月から治療費が高くなる、一般の方は、病院へは行きにくく、病院に行っても検査受けにくく、なかなか、

あの一、コロナのく、くすり、やっぱりたかいですよ！？ あっ今そんなにつらくないのでいません。って、投薬も受けにくく、一方自分のように、たくさんの苦しむコロナ後遺症の方を見ていると自分もあんなったら（言い方が悪くてすみません）、病院やっけなくなるな、たくさんの職員の方や患者さんたちにたくさん迷惑かけちゃうなと思うと、とても怖く不安に思いました」と、政府の特例的コロナ支援が3月ですべて終了することにも触れた。

「幸いコロナはただの風邪症状の方がふえたのかもしれませんが、実際ひどい肺炎に気づかない方もいて遅れてひどくなる人はいること、軽い急性期の症状でも、1-2ヶ月早く治療しないと咳で苦しむ、2週間ぐらい経ってからあれ元通りになれず働けないっていう人もたくさんいます。味覚が良くなならない、物覚えが悪くなった、だるい、頭痛が頻繁になった、満員電車で辛くて乗れない、あさだるくておきられない、って方が3%ぐらいはあります。でもこれってなんのせい？ どのような方がそういう後遺症で苦しむのか碌に調べようともせず、放置して、高い薬のまま、使える人を減らす。これは被害が起こることはわかっているけど、あとはロシアン（ルーレット）ね、って言っているのと同じで、わくちんうてだだ、うつなだだ、ますくしろだだ、するなだだ、4年もコロナ禍で苦労したのに、病院儲けただ、もうインフルと同等にふつうの対応で良いべって。おいおい、急性期の症状も重症になるタイミングも後遺症もインフルとはぜんぜんちがうだよ」と数多くの臨床例を踏まえた私見を述べた。

さらに「インフルエンザとほぼ同等とかいってるひと、おめーなにみてんだと、ちゃんとみてないだけだろーとおもいます、個人的に僕は。4年コロナ禍で苦労して、そこから何も学ばず、感染に強い環境をつくろうともせず、変なリング作ろうと税金ダダ漏れで使って、金がかかることは悪と決めつけ中抜きばかりに一心不乱、優遇して、健康や雇用を無視して、昭和平成の時代は良かった的に、ただコロナ前に戻せばおっけー牧場的な短絡的な思考と専門家と言われる者たちの実経験がないまま、当事案に当たらない論文ばかり読んで、まあ海外と一緒になら無難でしょっていう対応と政策実施にはただただ、なんの学習もなく、少子高齢化が世界一の日本の中でコロナ対策を怠れば労働人口がますますへり、日本の復活の足枷になります」と憤りはおさまらない。

これまでもXで医薬品不足の声をあげてきた倉持院長は「のどもとすぎれば、おっけー牧場。でもまた喉元くるよ今のままでは。今では普通の薬もなく、咳止めも痰切りも、もう一半年も見ていません。そもそもそのジャンルの薬が全然ありません。子供の抗生剤もネブライザーの薬もなかったり、とぎれとぎれです。もう慣れっこです。もう怖いんです。もうお終いです。多少の悪さでも入院などなかなかできず、明らかに新たな対策はおろか、碌に国民に必要な薬も届かなくなっています。高い税金を取る一方、おバカな政治家が、覚えていませんとか、納税するつもりはありませんとか、法律の穴をくぐりぬければ、小馬鹿にしたこと言ったりや済んでしまう現状はまさに後進国（日本もイマココ）のあれです」などと収まらない怒りをぶつけた。

**コロナ罹患の倉持院長「月曜から復帰します」と報告「後遺症の心配もなさそう」「休みも取れ、むしろさらに元気に」**

新型コロナウイルス患者の治療に取り組み、メディアで医療現場の声を発信している宇都宮市のインターパーク倉持呼吸器内科の倉持仁院長が16日午後X（旧ツイッター）を更

新、14日に罹患していると明かした新型コロナからの回復を報告した。

14日午後「すみません！　とうとうコロナになってしまいました。外来の患者さんや外来の先生、スタッフの皆様にはご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。はやくふっきするようつとめます！」と投稿、直後の長文投稿では病状とともに政府のコロナ対策に激しく憤った倉持院長。

この日は「コロナに罹り、数日経ちましたが速やかに検査が受けられ速やかに投薬が受けられ何の不安もなく体調が良くなっています。きちんと医療が受けられ適切な対応がされることで不安や心配がなくなり、むしろ早く復帰して休んだ分頑張ろーと思えます。月曜から復帰しますし、早期診断早期治療で後遺症の心配もなさそうです！　皆様ご心配をいただきありがとうございます。さらに皆様の健康を守るべく全力で職務に全うしてまいります。休みも取れたのでむしろさらに元気になりました！　3年ぶりに卵2個かけて牛丼食べちゃった！」と食欲の回復をまじえて意欲をつづった。

フォロワーは「後遺症なさそうで何よりです！　でも目いっぱい働くとよくないとも聞きます。先生はとても大事な方なので、くれぐれもご用心くださいませ」「倉持先生ふぁいとです」「とにかく栄養取って下さい」「国民がみなそのように医療にアクセスできて治療してもらえたらよいですよ」などと回復を喜んだ。